

資料3－3

地域活性化のための地方銀行と大学との連携について

1. 山梨中央銀行について



名称：株式会社山梨中央銀行
所在：山梨県甲府市丸の内一丁目20番8号
創立：1941年12月1日
資本金：154億円
総資産：4兆5,061億円
総預金残高：3兆6,288億円
貸出金残高：2兆7,600億円
従業員数：1,634人
営業店舗数：本・支店89
（うちインターネット支店1）
出張所10
（うちライフスクエア8）
特徴：山梨県内唯一の地方銀行
県、市町村、大学との関係が深い
2025年3月31日現在

2. 自己紹介

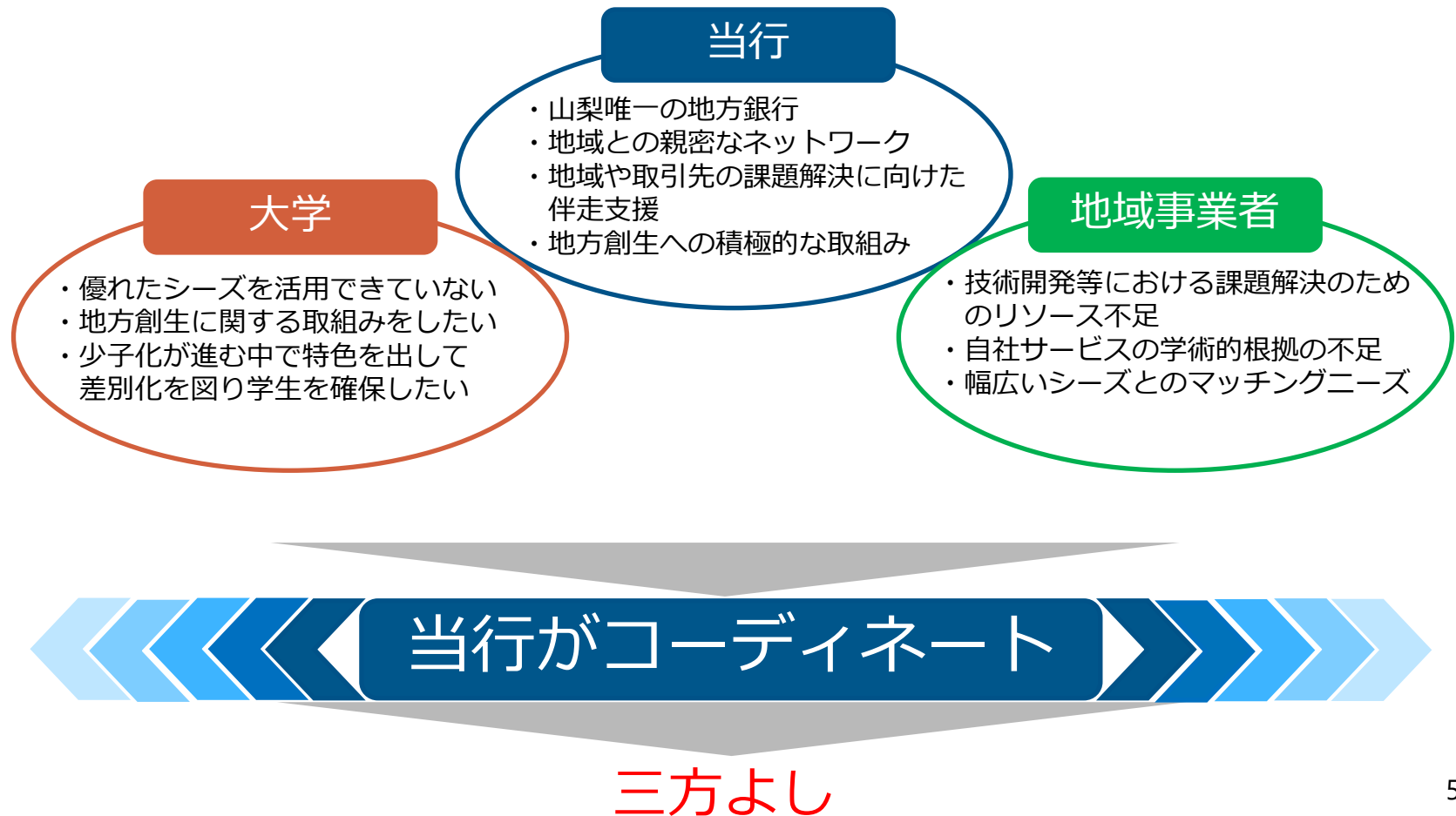
- 氏名 山田 尚 (やまだ しょう)
- 所属 株式会社山梨中央銀行 地方創生推進部 山梨未来創生室
- 役職 室長代理
- 派遣先 国立大学法人山梨大学 研究推進・社会連携機構
社会連携・知財戦略室 地域連携コーディネータ 客員教授
- 経歴 1996年（平成8年）入行
県内・都内の法人・個人渉外業務を中心に銀行業務全般に従事
2013年（平成25年）（株）サラダボウル（農業法人）に1年間派遣
2017年（平成29年）（株）日本政策公庫千葉支店農林水産業に1年間派遣
2023年（令和5年）地方創生推進部山梨未来創生室勤務
商談会等マッチング業務、山梨大学との連携業務をメインに担当
2024年（令和6年）8月から現職 地域連携コーディネータとして活動

3. コーディネータ活動の詳細およびその他の活動

	具体的な内容
地域事業者との連携	大学の研究シーズと企業のニーズとのマッチング
研究コンソーシアム への参画	大学の研究シーズの社会実装への助言・支援
大学発スタートアップ の起業支援	事業計画策定支援
大学と当行の 関係強化	学生と企業をつなぐ取組み

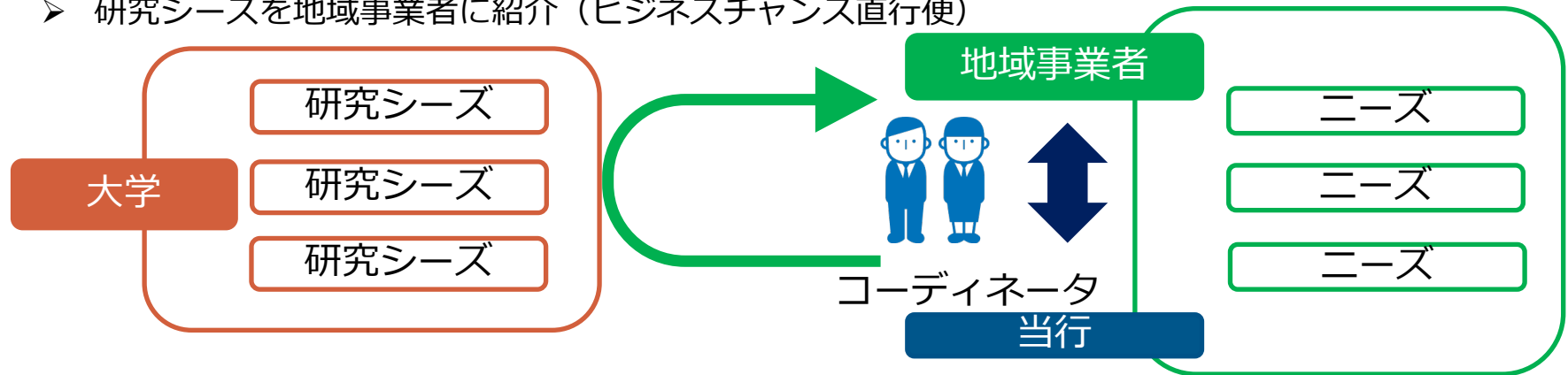
4. コーディネータの活動と意義

- 若年人口の減少に伴う競争激化により、大学においては、地方創生への貢献や大学のシーズを地域社会に広く還元することで特色を出す動きが見られる。
- こうした動きに対して、地方銀行が積極的に取り組むことにより、当行・大学・地域の事業者「三方よし」を実現することができる。

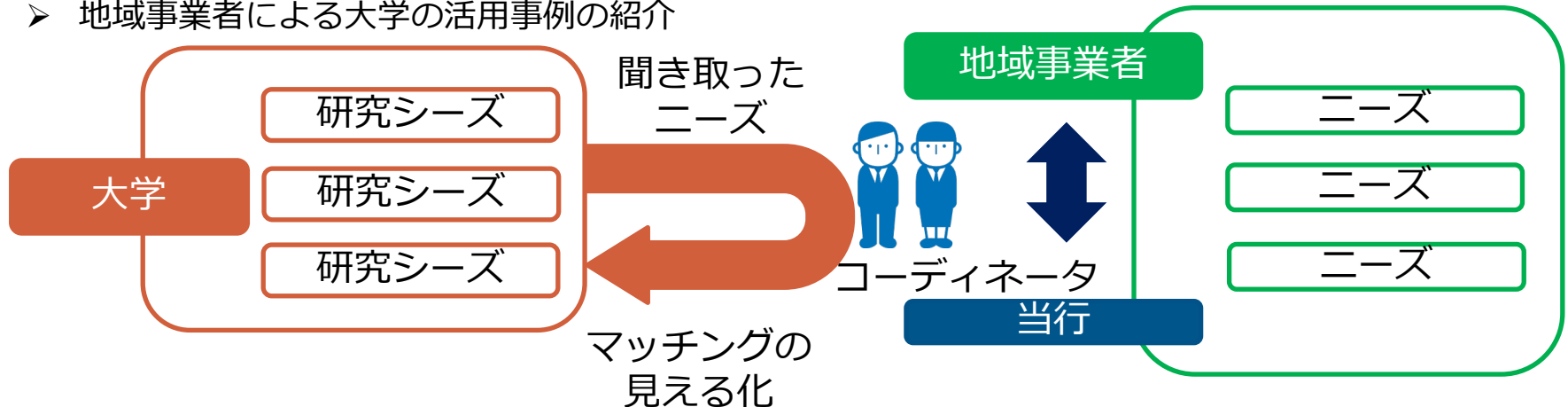


5. コーディネータの活動の変化

- 大学の研究に関心のある地域事業者からの相談に対応する
- 研究シーズを地域事業者で紹介（ビジネスチャンス直行便）



- 大学は地方創生を担う機関
- 地域事業者のニーズを聞き取り研究者による課題解決につなげる
- 地域事業者による大学の活用事例の紹介



6. 地方銀行と大学の連携

➤ 山梨中央銀行・やまなし地域デザインと大学が連携



新事業

観光価値創造業

脱炭素関連事業

広告宣伝・マーケティング事業



地域研究教育連携推進機構 (仮)

地域の高等教育のあり方を検討

目的: 地域の小規模大学でも互いの強みを生かせるよう、高等教育機関間の連携を推進

取組: 本学が中心となり、連携開設科目や共同調達、共同運営等により、各大学の強みを生かした教育機会提供

国公立連携による高等教育の確保

山梨大学・山梨県立大学
(現・アライアンス)

+

金融
機関

私立
大学

経済
団体

私立大学、産業界、金融機関等も含め、
地方創生のベクトル合わせ

各機関から出向者

実働部門

連携

地域構想推進プラットフォーム (仮)

【既存のPFへのコーディネーターの
参画による発展的拡充】

目的: 地域における高等教育への
地理的観点からのアクセス確保を
図り、地域に必要な人材を育成

取組: アクセス確保策や地域の人材
育成の在り方などについて、地域
の関係者が継続的に議論

連携

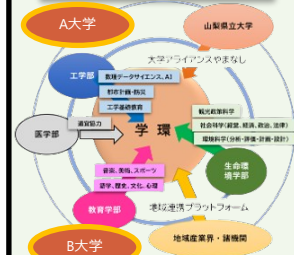
社会デザインサイエンス 学環(仮)

地域資源を活用した社会科学
的素養のある地域人材の養成

【文理融合型の教育組織】

目的: 多様な学術知を融合
した領域横断的なカリキュ
ラムを構築

教育体制



- 地域課題を用いたPBL
(課題解決型学習)
- 山梨大学の4つの学部
が有する学術分野を領
域横断的に学べるカリ
キュラム
- 地域研究教育連携推進
機構を活用した県内の
教育リソースを活用
- 地域の教育資源を活用
し、地域のニーズに応え
る実践的教育を実現

地域が求める教育内容を踏まえ、社会デザインサイエンス学環を設置



地域と、未来を創る

appendix

山梨大学の今～コーディネータ山田のつぶやき



山梨大学の今

コーディネータ山田のつぶやき

No.0012

2025年5月30日

「山梨大学個別技術相談会」開催！

先般、山梨大学と当行による「山梨大学個別技術相談会」がタケダストリートベースで開催されました。本イベントの開催目的は「地方大学である山梨大学は蓄積した知見で地域の皆さまが抱えている課題を解決し、地方創生につなげること」、「当行は山梨大学の研究シーズと取引先のニーズをマッチングさせ、取引先の事業発展につなげること」にあります。

今回は、山梨県内企業3社、山梨県外企業2社、合計5社が参加し、新商品の開発、新技術の開発、ジビエの活用など幅広い分野でのご相談がありました。今後、参加企業とは山梨大学との共同研究や学術指導の可否を検討していきます。

参加企業からは「一企業で新商品の開発を行うより、専門的な知見のある山梨大学と共同で開発することで、より良い商品が開発できます」「今回の相談会に参加し山梨大学のコーディネータの方々に相談することで、今後の開発においてやるべきことが整理できました」「当社は事業多角化の一環として新事業に関する研究開発を行っており、今回のようなイベントへの誘いはありがたいです」「新事業の展開にあたって画像解析の知見を山梨大学に指導してもらえるのはありがたい」といった声をいただきました。

皆さまが担当している取引先の課題に対しても有効な研究シーズがあるかもしれません。取引先と話をすることで、山梨大学の研究シーズを活用できるような案件がありましたら山梨大学の山田または地方創生推進部の山梨未来創生室までお気軽にご相談ください。



【アイドラス（株）】



【フジコン（株）】



【（株）富士山（オンライン）】

このイベントはTVで放映されました。
こちらの二次元コードからご覧ください



NHK かいどき



YBS ニュース



【（株）イェーガー（オンライン）】



【（株）UH 製作所】

担当：山梨未来創生室（山梨大学） 山田（内線 54174）



山梨大学の今

コーディネータ山田のつぶやき

No.0015

2025年7月 日

サクランボの選果を自動で！

山梨大学では研究シーズを活用し、地域の課題解決につなげています。

今回は山梨大学の小谷教授によるサクランボの自動選果機の開発についてご紹介します。

この研究は山梨大学、山梨県、南アルプス市、JA 南アルプス市、山形県、JA 全農山形、（株）ガオチャオエンジニアリング（山形県鶴岡市）が連携して行っています。内容は収穫したサクランボの画像を AI で学習させ、出荷できる果実だけを選び、等級・サイズ選別までも自動で行うものです。

サクランボ栽培者にとって選果は負担の重い作業です。このような中、本研究で作業が自動化できれば、農家の負担を大幅に軽減することができます（動画もあわせてご覧ください）。

これまでも山梨大学のさまざまな研究シーズが取引先の課題解決につながった事例があります。取引先と話をすることで、山梨大学の研究シーズを活用できるような案件がありましたら山梨大学の山田または地方創生推進部の山梨未来創生室までお気軽にご相談ください。



【自動選別機の全体像 リケジも活躍しています！】



【等級・サイズはこのように選別されます】

サクランボが機械に投入されてから自動で選別されるまでの動画はこちらから！



右の写真の続きは動画でご覧ください！



【いちまるの農園村松代表（サクランボ提供）と小谷先生（右）】



【選別されるサクランボ】

担当：山梨未来創生室（山梨大学） 山田（内線 54174）

山梨大学の今～コーディネータ山田のつぶやき



山梨大学の今 コーディネータ山田のつぶやき

No.0003

2024年11月22日

山梨大学との共同研究 「ゲームアプリと脳の活性化」

山梨大学では研究シーズを活用し、当行の取引先の課題解決につなげています。

今回は相模原支店取引先（株）ゴールデンサニーさまと山梨大学を引き合わせた事例をご紹介します。

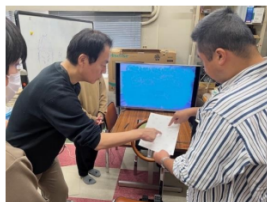
同社はゲームアプリの開発を行っています。社長の田村氏は大手ゲームメーカーに長年勤務した後に独立し、最近では社会のニーズに貢献するべく脳の活性化につながるアプリの開発に注力しています。

今般、同社から相模原支店 BA の有賀さんに「脳の活性化効果を謳うアプリは多いが、科学的な検証がされたものは少ない。科学的な知見に基づいたアプリを開発したいので研究者を紹介して欲しい」との問い合わせがありました。それを受け、同社へ帯同訪問した東京推進部の田邊代理が山梨大学に Outreach して山田に電話で相談したことで、今回の引き合わせにつながりました。

今回、山梨大学工学域の伊藤教授と同社の田村社長や社員（府川氏、ドウ氏）をお引き合わせし、本件について話し合いました。伊藤教授からは「ゲームには可能性がある。自分の研究とゲームは相性がいい」と思っていた。一緒に研究しましょう」との話があり、田村社長も「やるからには本気で開発するのが一流のゲームメーカー。世の中に役立つゲームアプリを開発しましょう」と意気投合され、今後の展開が期待できる打ち合わせとなりました。

これまでも山梨大学のさまざまな研究シーズが取引先の課題解決につながった事例があります。皆さまが担当している取引先の課題解決に有効な研究シーズがあるかもしれません。

取引先と話をすることで、山梨大学の研究シーズを活用できるような案件がありましたら山梨大学の山田または地方創生推進部の山梨未来創生室までお気軽にご相談ください。



【田村社長（左）と伊藤教授】



【ディスカッションの様子】

担当：山梨未来創生室（山梨大学） 山田（内線 54174）



山梨大学の今 コーディネータ山田のつぶやき

No.0011

2025年5月29日

山梨大学と高校生による観光の創造！

山梨大学では研究シーズを活用し、地域の課題解決につなげています。

今回は白根高校、南アルプス市、山梨大学による観光についての取り組みをご紹介します。この取り組みは白根高校の「総合的な探究の時間」において、山梨大学の菊地先生による出前講義、学生によるワークショップ、現地見学等を通じて白根高校の生徒たちと共同で観光創造を目指す共同研究で、今年で3年目に入っています。

上記のプロジェクトに関わっているのは生命環境学部准教授の菊地先生です。先生は「地域の観光」について研究しており、観光地づくり・観光地経営などに関する調査研究・教育も展開しています。

今年度はエコパ伊奈ヶ湖とその周辺地域を対象として、高校生の考える魅力的なコンテンツや空間、商品を企画・立案し、年度末に南アルプス市や事業者に対して提案します。

なお、今年度は南アルプス市が発行している観光ガイドブック「南アルプス市エコパーク周辺ガイド」に「白根高校生が選んで取材・撮影したフモットのおいしいおみせ」と題して白根高校生の活動に基づいた記事が掲載されました。

これまでも山梨大学のさまざまな研究シーズが取引先の課題解決につながった事例があります。取引先と話をすることで、山梨大学の研究シーズを活用できるような案件がありましたら山梨大学の山田または地方創生推進部の山梨未来創生室までお気軽にご相談ください。



【菊地先生による今年度最初の出前講義】



【ワークショップ（昨年度）】



【南アルプス市エコパーク周辺ガイド】

担当：山梨未来創生室（山梨大学） 山田（内線 54174）